

LATITUDE 40N

2019年
8月29日

通巻67

●発行／(公社)秋田県診療放射線技師会 〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷247-32 TEL・FAX(018)838-3231
 ●発行責任者／豊嶋 英仁 ホームページ <http://www.aart.jp> AART E-mail:akita@aart.jp



巻頭言

2019夏

(公社)秋田県診療放射線技師会 会長 豊嶋 英仁

アール(R)は放射線業界にとって親しみのある頭文字です。今年の春以降、元号が令和(R)になり、また、好評の月9ドラマ“ラジエーションハウス”により診療放射線技師が注目されました。ごく最近では、畦元省吾 連盟副理事長が繰り上げ当選されて待望の診療放射線技師の国会議員(衆議院)が誕生しました。本邦の診療放射線技師の歴史の中で最も大きな“R”の波を感じる2019夏です。

医療被ばくを適正に管理するための改正医療法施行規則が公布され、令和2年4月より施行されます。施行後、診療放射線技師には、医療放射線安全管理責任者の配置(選任)、医療放射線安全管理のための指針の策定、関係職員等への研修ならびに患者との情報共有等への対応、被ばく線量の管理及び記録が求められます。これは、かなり大きな課題であり、診療放射線技師の手腕が問われています。県技師会としても研修会を通して対応策を示していきたいと考えております。

また、JART事業として長年継続されてきた医療被ばく低減施設認定は、法改正を受けて社会(患者)への貢献に重要な役割を担っています。現在県内では認定取得施設は1施設ですが、

認定取得に向けて努力されている施設があります。まずはこれらの施設が申請し認定されるように県技師会としても支援を続けてまいります。

技師法改正による業務拡大に伴う統一講習会の地方開催は今年度で終了し、来年度は都市部での開催に限定されます。秋田県では11月に開催する講習会が最後になります。前回までの講習会で秋田県会員の修了者は68%に達し、主な会員の方々は終了されました。残る未受講者には更なる働きかけを行い、診療放射線技師のスキルの確保に努めていきます。受講の対象者には、ここ数年のうちに入職された新人の方々も含まれますので、声かけと支援をお願いいたします。

現執行部は2年目に入り、後期の事業を充実させるために誠意邁進しています。引き続き、将来的な視点に立ち、当技師会が公益社団法人としての役割を果たすことを念頭に取り組みます。今後とも会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

功労賞の表彰

[表彰]

松橋忠昭様



本当ですか？ 功労賞

能代厚生医療センター 松橋忠昭

この度は、功労賞を頂きありがとうございます。表彰状など無縁な私が、このような賞を頂いたことは、まさに奇跡だと思います。私の正体をご存知の方はさぞかし驚かれているとお察し致します。何の功績も無い私の名前をあげて頂いた、豊嶋会長をはじめ理事のみなさまに心より御礼申し上げます。例年だと、功労賞・奨励賞・学術功労賞と多数の受賞者がおられるのですが、今回は、今まで出くわした事の無い、相模司氏の「名誉会員の称号」の贈呈と、功労賞が私だけで、先延ばしもお断りも出来ないという事態になってしまい、足がすくんでしまいました。

県理事につかせて頂いたのは、2014年のことです。“あれよあれよ”という間に3期6年目になります。現在は自分の身の丈も考えずに、県北の支部長をやらせて頂いております。私がこれまで、支部役員や県理事を続けられたのは、能代厚生医療センター放射線科のスタッフや県北支部の皆様のおかげだと、ただただ感謝しております。今思えば、技師会の研修会やイベントに連れて行ってくれた職場の諸先輩や、そこで優しく接して下さった会員の皆さんのおかげで、ズルズルと技師会に引き込まれてしまったとう感が否めません。私も同様に沢山の技師を引き込みたいのですが、今のご時世、なかなか上手くいかないのが実情です。

技師会の役員をしていると、正直大変だと感じる時もあります、それ以上に得られる

ものが沢山あると考えております。その一つが「つながり」です。県内の主な病院から集まる理事たちとの情報交換や相談、お願い事等なんでも気軽に出来るような繋がりを持たせた事は最大のメリットだと感じております。もう一つは、「刺激」です。各病院での通常業務をこなしながら、技師会の業務も両立しなければならないというハードな生活を送られている、会長、副会長をはじめとした理事の皆さんを間近で見ていると、私も頑張らなければと、モチベーションアップにつながっております。

振り返ると、あっという間の6年間でしたが充実した日々を送らせて頂いたと感じております。これからも、(公社)秋田県診療放射線技師会の発展に微力ながら協力させて頂きたいと思いますのでご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



第79回

定時社員総会・教育講演・特別講演報告

市立秋田総合病院 田村博文

令和元年5月18日(土)、にぎわい交流館(AU)3階多目的ホールにて、第79回定時社員総会が開催されました。今年は、同日に同場所において、フレッシューズセミナーと放射線安全管理セミナーが開催されたことと、教育講演と特別講演が開催されることもあって、多くの会員の出席がありました。

総会に先立ち、名誉会員の贈呈と功労賞の表彰が行われ、名誉会員、功労賞に各1名、計2名の会員が表彰されました。

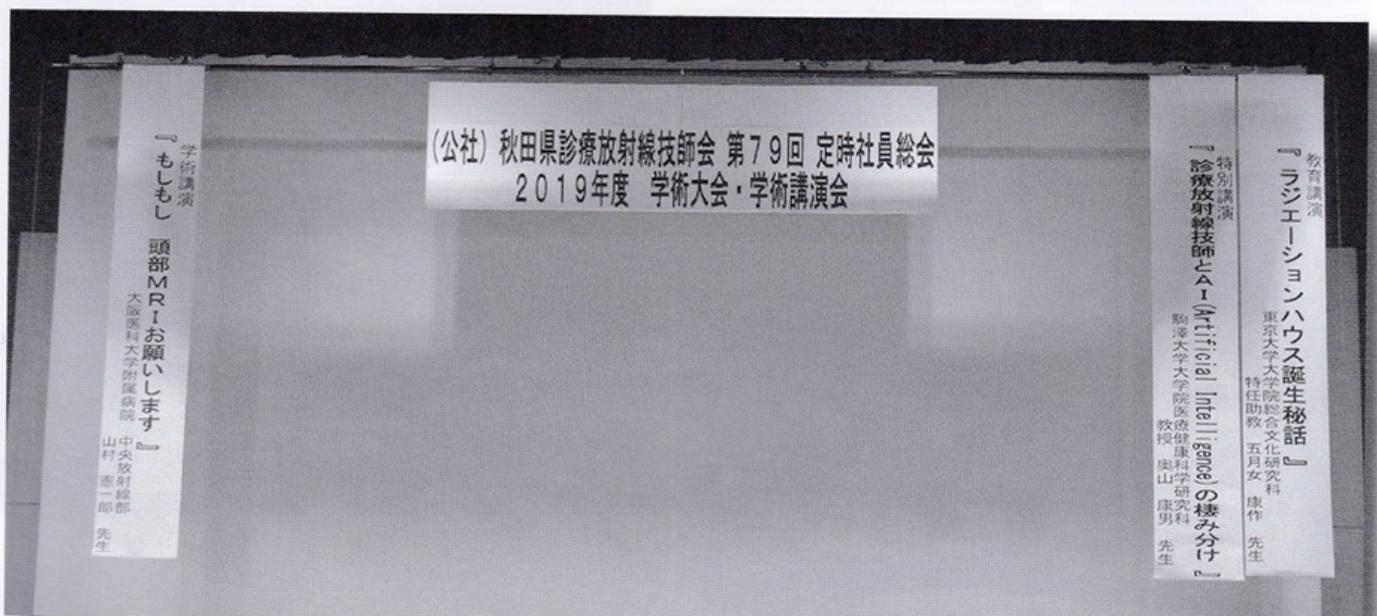
表彰式終了後、定刻になり、川又副会長の開会の辞により、定時社員総会が開会されました。はじめに、資格審査委員、社員総会運営委員が指名され、続いて豊嶋会長より挨拶を頂きました。その後、資格審査委員長より総社員の過半数の出席を確認し、本会が成立したことが報告されました。次いで、社員総会運営委員長より、総会運営にかかわる事項が説明され、その後、議場に対し議長の選任方法が諮られました。参加会員より一任の声があり2名の会員が議長に選任されました。今回選任された議長は2名とも若い女性会員であり、時代が変わったこととともに、時代の流れというものを感じました。

その後、総会役員が指名・承認され、各議案の審議に入りました。各議案とも満場一致で承認され、議長団の進行がスムーズであったこともあり、定時社員総会は無事終了しました。

定時社員総会終了後には、学術大会の第1部が開催され、6名の会員による演題発表がありました。すべての演題において活発な討論がなされ、講演会前にも関わらず、会場はすでに熱気にあふれていました。

学術大会終了後、教育講演が開催され、「ラジエーションハウス誕生秘話」と題して、東京大学大学院総合文化研究科の五月女康作先生よりご講演いただきました。先生は、十数年前から、診療放射線技師が主人公の漫画を作りたいと活動を続けて来られた方で、監修された、このラジエーションハウスは、数年前に漫画化され、さらに、今年の4月からはドラマ放送もされた話題作となっています。先生の講演を聞いて、ドラマはもちろんのこと、漫画本も全巻読破したい気持ちに駆られました。会場の皆さんも同じような気持ちになったのではないのでしょうか。

教育講演終了後には、引き続き特別講演が開催され、「診療放射線技師とAI(Artificial



Intelligence)の棲み分け」と題して、駒澤大学大学院医療健康科学研究科の奥山康男先生よりご講演をいただきました。先生からはAIに関する基本的なことから、AIの利点・欠点、応用まで、非常に詳しくご講演いただきました。また、「AIの仕事は人間よりも、はるかに早く、正確で疲れない、数年後を見据えて今からAIに関する勉強をスタートさせておくべきである」とおっしゃったのが、印象に残りました。

特別講演終了後は、来賓をお招きし、ホテルメトロポリタン秋田において、情報交換会が開かれました。情報交換会では、毎年恒例となった表彰受賞者のスピーチと、若手診療放射線技師の自己紹介、研修会の紹介等があり、盛会に終わりました。



2019年度

学術大会・学術講演会報告

秋田赤十字病院 大隅 康之

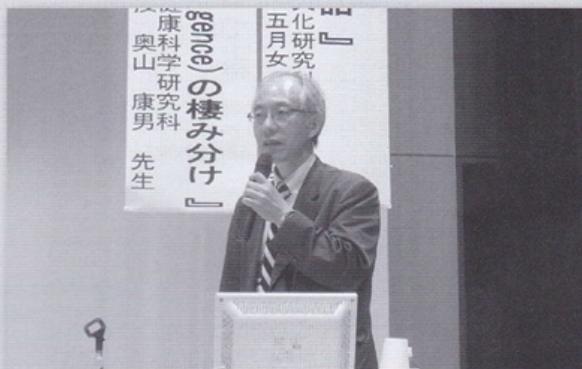
2019年5月18日(土)、19日(日)の2日間、2019年度(公社)秋田県診療放射線技師会学術大会並びに学術講演会が開催されました。元号も平成から令和へと変わり、会の世代交代も進む中で、若い会員が先頭に立って発表する大会になったと感じました。

今回の学術大会は1日目に6演題、2日目に17演題、合計23演題と若干少なめに感じた大会となりました。ただし、今大会はバランスのとれたセッションで内容は濃く、どの時間も沢山の会員が参加し、熱気と活発な質疑応答で会場は常に盛り上がっていました。2日目の学術大会最後のセッション7 MRIでは、予定の時間を超過するほどヒートアップしていました。学術大会

終了後には第一三共株式会社と共催のランチオンセミナーがあり、「腹部造影CT検査における造影剤～600mgI/kgについて～」の情報提供が行われました。

学術講演会では、大阪医科大学附属病院中央放射線部の山村憲一郎先生による「もしも 頭部MRIをお願いします」と題して、頭部疾患でのMRIの有用性を分かりやすく、ご講演いただきました。

今大会は総会から続きの2日間、天候にも恵まれ5月の3週目という初夏の秋田で忙しい時期にしては多くの会員の参加があり盛況のうちに終了した大会となりました。次年度も更なる飛躍のもとで行われる大会になって欲しいと希望します。



救理ソリューションカンファレンスへ参加して

JCHO秋田病院 中西 沙 紀

昨年も参加させて頂いた救理ソリューションカンファレンスに今年も参加させて頂きました。今回は、山方先生によるピラティスの実技もあり、初めての経験でしたが、思っていたよりもとても難しく、思うように筋肉を動かすことが出来ないと思いました。激しい運動ではなかったのですが、普段使わない筋肉を動かしているせいか、汗ばむくらい体が温かくなり、少し筋肉痛になったので、意識して筋肉を使うことがかなり大変なことであることを痛感しました。運動不足なので、ピラティスを通して汗を流したことで、とてもスッキリした気持ちにもなれたので、体を動かすことの大切さを知るとても良い機会になりました。

情報交換の時間では、勤務形態による問題点や工夫している点について各病院の現

状を共有しました。実際に問題に思っている点や他の病院で行われている工夫などを聞くことで、解決策や解決困難な課題などについて話し合うことが出来ました。各病院によって勤務形態やローテーション変更の頻度、それによって起こる問題、休みの取りやすさなどについても話をする事が出来、私自身も日頃の問題について意見を聞くことが出来たのでとても参考になりました。今回は15人くらいでしたが、同じ女性技師として同感できる・参考になる意見ばかりで、普段できないような意見交換もすることができたこと、そして同じ秋田県で働いているということは、技師としても女性としてもとても心強く感じました。今後もこのような会を通して女性技師のつながりを強くしていけたらいいと思います。



救理ソリューションカンファレンスに参加して

(公財) 秋田県総合保健事業団 藤井真紀

平成31年1月19日(土)、平成最後の救理事業であるソリューションカンファレンスに参加しました。会場となったにぎわい交流館AUは、総会や学術大会など技師会ではおなじみの場所ですが、パフォーマンス工房に足を踏み入れるのは“初”でした。フローリングに鏡張りのスタジオはピラティスを行うには最適な場所で、参加されたお子様も安心して遊ぶことができたようでした。

最初に、ピラティス講師の山方千晶先生より1時間ほどピラティスの基礎について実践を交えて教えていただきました。ピラティスを行う上で大切な呼吸方法や、普段意識しない筋肉を意識しながら動かすこと、それによってインナーマッスルや体幹が鍛えられることを教わりました。ピラティスが全く初めてのわたしにとっては、日頃の運動不足もあり先生の説明のとおりに行っているのかどうか、正直自信がありませんでした。個人的に衝撃的だったのは、参加された女子のみなさんがほぼほぼヨガマットを持参してきたことです。(若いひとたちには、ヨガマットやヨガパンツって必須アイテムなのだ実感…) おそらくこのよう

な企画でもない限り、個人的にピラティスを体験するという事はなかったと思うので大変貴重な時間となりました。継続することでより効果があると思うので、ぜひ続けてみたいと思いました。

会の後半は、車座になっての情報交換でした。テーマは業務体制や勤務形態についてです。勤務先のシフト表等を各自持参し、それぞれ比較したり質問したりしました。産前産後の働き方やマンモグラフィについてのローテーションなど、女性技師ならではの特有の悩みや問題もいくつか挙げられました。各施設によって対応はさまざまですが、他施設の会員の意見を聞くことにより違った見方ができるかもしれないと感じ、またいろいろな意見が聞くことができ良かったと思いました。直接の解決策に結びつかないものもあるかもしれませんが、それでも話すことで知ってもらったりアドバイスを聞いてこれからの業務の参考になるのではないかと思います。他の勉強会や研修会もたくさんあり業務も多忙かと思いますが、こうして女性技師が定期的に集まることが今後も継続して開催していただければと思います。



マネジメント・医療画像情報研修会 が開催されました

秋田労災病院 岩根 敦

今年度の当研修会は日程の関係と参加者増員を目的とし、コラボ開催といたしました。テーマは日常の業務管理再考といたしまして、3施設からそれぞれ機器管理、安全管理、被ばく管理のご報告をいただき、1施設より医療被ばく低減施設認定施設取得にむけた取り組みをご紹介いただきました。機器管理についてご報告いただいた秋田労災病院、林部長からは過去に様々な要因で発生したX線装置の使用許可申請漏れに対して、グループ病院全体で取り組んでいる施設間での協力体制や管理簿や一覧表など再発防止策をご報告いただきました。北秋田市民病院、平川技師長からは自施設で行われている医療安全確保のために行われている取り組みについてご報告いただきました。安全管理は基本的かつ重要な管理であり、KYTやシステムによる注意喚起など大変参考になったと思われま。被ばく管理については県内唯一の医療被ばく低減認定施設である市立横手病院、郡山技師長よりご報告いただきました。限られた設備でいかに工夫して被ばくを低減し、管理していくために、技師が多くの汗をかき努力することが重要であると改めて感じました。今後認定施設取得を目指す施設には大変参考になったと思います。続けて市立秋田総合病院、工藤会員より医療被ばく低減認定取得に向けた取り組みについて、現在の状況や問題点を包み隠さずご紹介いただき、会場参加者でディスカッションを行いました。その中で、やはり一人では達成不可能な活動なので、スタッフ全員が同じ方向を向いて協力し進めることが大事であると感じ、会場も同じ雰囲気であったと思います。

休憩を挟んでベンダー3社より自社の新技術をご紹介いただきました。テラリコン

社からは医用画像データフローマネジメントをご紹介いただき、シーメンス社とEIZO社からは最新の医療被ばく線量管理システムをご紹介いただきました。講演だけでなく、各社とも実機を展示していただき、参加者の皆様には休憩時間を利用して実際に触れていただき、皆様興味深くご覧いただきました。

最後に特別講演としてGE社、有田先生より最新の医療政策についてご講演いただきました。近い将来訪れる労働人口の減少と高齢者の増加、医療費の増加を見越した政府の戦略について、目指す医療は何かということを知りやすくお話しいただきました。専門性と分散ということ、医療を提供する側だけでなく受ける側も考える取り組みが行われているなど、取り巻く環境は目まぐるしく進んでいることを実感できました。常にアンテナを張り柔軟に対応できる心構えが必要だと感じました。

今回の研修会は内容盛りだくさんで欲張った感じではありましたが、参加した皆様の今後の活動のご参考になれば幸いです。



母の日キャンペーン

母の日キャンペーンに参加して

北秋田市民病院 中西 沙紀

5月19日に行われた母の日キャンペーンに、秋田県放射線技師会救理委員として参加しました。天候にも恵まれ、気温も少し汗ばむような陽気の中、乳がん検診の啓蒙活動として自己検診の仕方が書かれたピンクリボンのポケットティッシュと乳がん検診啓蒙パンフレットを配布しました。

11時過ぎから1時間を目安に行いましたが、

母の日キャンペーンへの参加人数も多く、日曜の昼という時間帯もあり、早い時間で多くの方に配布を行うことが出来ました。配布した方からは「乳がん検診毎年受けてます!」といった声も聞くことが出来ました。現在50%にも満たない秋田県の乳がん検診率を増やしていくためには、今回のような定期的な啓蒙活動を継続して行っていくことが、とても大切であると感じました。



生活習慣病検診従事者講習会に参加して

中通総合病院 進藤良輔

6月29日に秋田県立循環器・脳脊髄センターにおいて、令和元年度の生活習慣病検診従事者講習会が開催されました。今回は情報提供1題と講演3題が行われました。

まず情報提供は伏見製薬株式会社の門脇大輔先生による「バリウムの副作用について」でした。主な副作用として、過敏症、穿孔、誤嚥、一過性の血圧低下が挙げられていました。実際にあったバリウムによるアナフィラキシーショックや血圧低下によって転倒し頭蓋内出血を起こしたなどの話を聞いて、発症数は少なくとも副作用は起こりうるものと思い、対策や対応を考え検査を行うべきと考えさせられました。

次に、秋田県健康福祉部健康づくり推進課がん・生活習慣病対策班の辻田博史先生より「秋田県のがん対策について」と題しての講演が行われました。秋田県はがん死亡率が20年連続全国ワースト1位となっており、その改善に向けた「第3期がん対策推進計画」についての説明がありました。がん予防の為の啓発事業や検診の受診率向上への取り組み、がん医療体制を充実させるために携わる看護師や技師を養成する病院に対しての経費の助成があることを知りました。希少がん、思春期世代若年成人世代のがんに対応するため、またがんと共生するための色々な施策も聞くことができ、県としての取り組みがよく分かりました。

続いて、公益財団法人岩手県予防医学協会の久保田憲宏先生より「当施設の大腸CTの現状」と題しての講演が行われました。先生の施設で行われているCTCの流れに

沿って紹介と説明をして頂きました。横行結腸のつぶれ防止のためにコロンマットを使用していること、前処置の薬剤の組み合わせによる画質検討、体型とBMIによる炭酸ガスの注入圧の検討など、検査毎の画質差が少なくなるように取り組んでいる様子が分かりました。教育のしやすさや画像差を減らすためにも「手技の統一化と明確化」が大切と話されていたのが印象に残りました。

最後に公益財団法人宮城県対がん協会がん検診センターの加藤勝章先生より「背景胃粘膜を考慮した胃X線読影について」と題しての講演が行われました。X線画像からピロリ菌感染の有無や、萎縮、胃炎、腸上皮化生、癌などについて発生機序や特徴などを解説して頂きました。読影するにあたって、胃小区模様と襞の走行や性状など背景粘膜の観察が大切となり、そのためにバリウムの付着と適切な空気量が重要と話されていました。また胃X線画像の読影に関して、医師の読影力が落ちているため、技師が綺麗な画像を撮影するだけでなく、レポート添付も必要と話されていました。また「読影補助認定制度」が設立され、読影力が求められていることが分かりました。

今回の講習会に参加して学んだ事をこれからの業務に活かしていきたいと思います。



生活習慣病検診従事者講習会に参加して

雄勝中央病院 武田育子

6月29日に秋田県立循環器・脳脊髄センターで開催された令和元年度生活習慣病検診従事者講習会に参加させていただきましたので報告します。

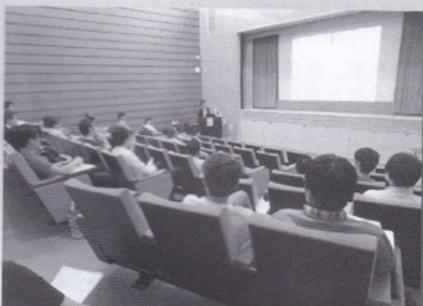
まず、秋田県健康福祉部健康づくり推進課、がん・生活習慣病対策班の辻田先生による『秋田県のがん対策について』の一般講演がありました。秋田県内のがんの実情をふまえ、第3期秋田県がん対策推進計画の概要についてご教示いただきました。秋田県のがん死亡率が全国第1位なことは知っていましたが、それが平成9年から20年連続しているということには驚きました。特に胃がんは部位別死亡率が全県で1位の状態が続いていることもあり、胃がん検診の精度の向上が求められていると強く感じました。

続いて公益財団法人岩手県予防医学協会の久保田先生より、『当施設の大腸CTの現状』の教育講演がありました。先生の施設は検診専門施設ですが、要精査の判定を受けた患者さんの精検受診率を上げるため、また他院紹介の精度を上げるために大腸CTを行い始めたということでした。大腸の内視鏡検査は痛い、怖いというイメージが多く、多くの患者さんにあるため精検受診率は低く

なりがちですが、CTで済むなら頑張っ受けてみても良い、とおっしゃる方も多そうです。検診を請け負う以上、引っかけた患者さんのフォローが適正に行われているか今一度確認し、放射線技師の立場からのアプローチについて再考する必要性を感じました。

最後は公益財団法人宮城県対がん協会がん検診センターの加藤先生より『背景胃粘膜を考慮した胃X線読影について』の特別講演がありました。ピロリ菌感染歴の有無など、個々の胃の状態によって、胃がんの頻発部位・形状は異なります。典型例について、分かりやすい症例写真とともにご紹介いただきました。今は昔のフィルムに比べて追加撮影をすることへのハードルは下がりましたが、闇雲に追加撮影を行うのではなく、個々の胃粘膜の特徴をとらえ、自分の中で正当化された有意義な追加撮影を行いたいと思います。

今後もこのようなセミナーに参加させていただき、検診を受ける患者さんの利益向上、ひいては県全体のがん死亡率の低下に寄与できるよう努めたいと思います。



会 員 情 報

【会員数】

(2019年6月21日現在)

356名(正会員353名、名誉会員3名)賛助会員:24社 県北支部:89名、中央支部:179名、県南支部:88名
 ※会員情報(住所・氏名・勤務先等)の変更は、日本診療放射線技師会のホームページにて手続きをお願い致します。

お知らせ

JART 30・50年勤続表彰のお知らせ

○勤続表彰のお知らせ

JART表彰規程において会員の永年(30年、50年)勤続を表彰するとされており、例年11月ごろにその推薦を行っております。

表彰者推薦の要件は

- (ア)診療放射線技師登録後、放射線技師業務に30年以上(あるいは50年以上)従事した会員
- (イ)本年度までに会費未納の無い会員
- (ウ)JART入会后、連続15年以上経過した会員(再入会は新規入会とみなす)
- (エ)50年勤続表彰者はすでに30年勤続表彰を受賞した会員

となっております。

今年度30年勤続表彰の対象となる会員は、**技師登録1989年(平成元年)**の会員です。例年、対象となる会員には、はがきや電話にてご案内しております。表彰を希望される会員はJART HPトップページ/「各種様式」/「表

彰推薦に必要な書類」より「様式5」をダウンロードし、履歴をご記入の上、以下までご郵送願います。

なお、ご提出後AARTにて推薦された会員は、来秋に開催されます全国学術大会にて表彰されることとなります。なお、当日出席できない方には賞状と記念品が郵送されます。

また、過去に対象者(上記太字以前に技師籍を取得されている会員)でありながら表彰を希望されなかった方でも要件を満たす方は推薦の対象となりますので、ご一報いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ：表彰委員長 谷口 直人

〒010-8543

秋田市広面字蓮沼44-2

秋田大学附属病院 中央放射線部

Tel:018-884-6305

E-mail:tani-rt@gipc.akita-u.ac.jp

ご案内

今年のピンクリボンキャンペーンの開催日が決定しました。

- 令和元年10月5日 土曜日
- イオン大曲店(大仙市)

興味のある方、また近隣にお住まいの方は、ぜひお立ち寄りください。

開催時間、内容等詳細につきましては、ピンクリボンキャンペーンin Akita2019ホームページをご覧ください。

編 集 後 記

- 今年度も、皆様からのご協力により、情報誌LATITUDE40N通巻67を発行することが出来ました。原稿をくださった皆様、大変ありがとうございました。広報委員会では、引き続き原稿を募集中ですので、今後もご協力のほど、よろしくお願いいたします。(田村)
- 今年の梅雨は、九州から関東にかけて連日の雨やゲリラ豪雨と日照不足となりました。対して秋田といえば、空梅雨で梅雨らしくなかった感じがします。そんな今年の冬は厳冬になるのか暖冬となるのか、今からヤキモキしております。さて時代は平成から令和となり、この機会に運氣上昇となるのかと勝手に思いきや、医療の取り巻く環境は一向によくなりません。当院においても機器の早期更新や人員の確保、給与アップなどの要求・願いはあるものの、即決出来ない状況となっております。リアルな現実、早々甘くはないですね。目の前にある現実…年末に向けて一時金、厳冬となるのか暖冬となるのか？寒くなって欲しくないなあ…【汗】(大隅)
- うだるような暑さ!!雨もここ2週間降っていません。畑はひび割れ状態で雨乞いをしている状態。今日久々の雨。ほっとして空を見上げると、なんと真っ暗!!そして台風並みの風と、バケツをひっくり返したかの大雨!!なんなんだ、この天気。世界的に異常気象のようだがこの先大丈夫なのだろうか。じりじりした暑さの中、空を見上げている…。週間天気予報だとまだお日様マークが続いているよ!!(佐々木)
- 病棟回りのポータブル、一応真面目には仕事をしてはいますが、つつい窓の外に目が行きがちになります。以前能代勤務の際、病棟をポータ押しながら停泊していた「飛鳥II」を見て只々大きさに度肝を抜かれたことがありました。今年、予定では秋田に二十数回寄港するとの事。半灯期間には秋田港に4日連続で入れ替わり豪華クルージング船が寄港します。4月に、あの「クイーンエリザベス」が来た時には初寄港を記念して抽選で100名船内見学が出来ましたが私は…。田舎者には一生に一度のチャンスなのに…。残るは自力で南国の青い海を優雅にクルージングなどと限りなく僅かな可能性も無くもないですが、クルーの人とのコミュニケーションに問題が…。(佐藤)
- ある日、伝票書類で「R元」と手書きで記載していました。「字が汚い読めない」という訳ではありませんでしたが、読めずに理解できませんでした。周りに聞くと「令和元年でしょ!R1でも来ますよ!」と言われて、「あつ!元号」ようやく読めて理解しました。頭や言葉では「令和元年」と発しているのですが、アルファベットの元号略「R」が染付いていなかったのです。それからしばらくして手書きで、検査日を列記することがありました。「令和元年〇月〇日…」目視して、頭でも「令和」となっているのですが…文字にすると「H31…」と無意識に書いているのです。「ヤバイ!」ペーパーレスの弊害なのか、令和の「R」を書き慣れてない為、全て「H」から書き始めていました。皆さんは令和の「R」は書き慣れてましたか。(羽澤)
- バスケットボールで、試合終了のブザーが鳴ると同時に放たれて決まるシュートを「ブザービーター」と言う。先日、自分の子供が出場している試合でそれを目の当たりにした。もちろん人生初の経験である。いつも相棒の一眼レフで写真を撮りながら観戦する私だが、その「奇跡の瞬間」は興奮し過ぎて両手をハンズアップしていた…。自分よ、あれを撮らずに何を撮る。(鈴木)